

略歴

,

平井美智子(ひらい みちこ)

一九九六年 時実新子「川柳大学」会員

二〇〇七年

「川柳大学」終刊

二〇一七年 川柳塔社同人 大阪市生涯学習インストラクターとして川柳講座開講

出版物

本 井美智子 扁(寿美行子)――:動民)平井美智子川柳句集(凌霄花)平井美智子句集(なみだがとまるまで)平井美智子川柳集(窓)

平井美智子編(時実新子の川柳と慟哭)

師・時実新子が好きで彼女の(追っかけ)から始めた川柳。

だが今、その川柳に救われている自分がいるのは確かである。

ごほうびのように優しい雨がふる

きのう

飛べたらねえ飛べたらねえと仰ぐ空

泣かんとき 私を好きで嫌いでキムチ鍋 大きい方をあげるから

本心を隠す修正液の白

捨てて来たはずの匂いを持ち帰る

ほ

ほ笑んだ気がして乗った昼のバス

もう次のオモチャが欲しくなっている

コンニャクは苦手

悟りはほど遠い

1 0 00円を足して飲み放題にする

神 一百円分だけ動く観覧車 別れ時でっせ」 様と遊び悪酔いしてしまう と秋の風が吹く

軽い順ですと後回しにされる

大泣きの途中で舐めてみる涙

屋根に雨

誘眠剤が効いてくる

灯を点けて両手で猫を抱いて寝る

おととい

淋しさの形 時々熱が出る

破り捨てて欲しいと書いてある手紙

いつもの椅子にいつもの人がいない秋

裏返しのままで浮かんでいる豆腐

赤だった日がアルバムの中にある

美しい思い出という解毒剤

波の音だけが流れてくる電話

聞きわけのない淋しさを抱く夜更け

傷口に重ね塗りする矢代亜紀

女ひとり毛玉のついたシャツで寝る

珍獣のビラが貼られている背中

優しさを演じ続ける糖衣錠

虫ピンが刺さったあたりから発火

紅 組の籠に入った白い玉

石

 \mathcal{O}

願いは石であること

家族の

輪

窓際にゴメンナサイが吊ってある

あさって

浮くことをまだ諦めていない石

大きめの袋に入れる自画自賛

泣くもんか一人抱えるおでん鍋

道連れは笑い袋と二枚舌

座ろうか立とうかバスという世間

余ってるからと回ってきた主役 企みを抱いておいしい牡蠣フライ

生

善善

たとえば君を愛し抜く

風になる切符が添えてある手紙

鳥になる日と書いてある予定表

盗まれた月を探している浜辺突然の冤罪 神に試される

逃げ出した檻が恋しくなる日暮れ

白になるゲーム。ゴールはまだ遠い

生きてゆく重さぶらりと象の鼻

椅子ひとつ机ひとつを置く野原

タイトルは「生きる」 私を演じ切る

平井美智子ミニ句集 LIVE

発行人 平井美智子 編集所 川柳塔社 WEB サイト http://senryutou.net